

分類	項目	回答
協働的な学び	○子供同士の関わり	・協働的に学べる場(環境)を用意し、その中で子供たちが主体的に学べるようにすることは、これからの学習指導にとって重要なことだと考える。その前提に立ち、安全に関する指導は、まずは第1時において、教師から子供にしっかりと伝えることが大切である。子供たちの学習中の姿から、安全に関する理解の状況が十分ないと思われる場合には、その後も繰り返し伝えることが重要であると考えている。
		・意図的なペアやトリオによる学習も、効果的な手立てである。子供たちは仲間と共に活動したことによる成功体験を積み重ねていくことで、誰とペアやトリオを組んでも、互いに学び合いながら学習活動に取り組めるようになって考えている。そのため、はじめは意図的なペアやトリオで学習を進め、その学習経験を積み重ねてきた段階で、自分が選んだ場で出会う仲間と、子供が自分のニーズに応じてペアやトリオをつくって学習することができるようになるのではないかと考えている。
知識及び技能	○苦手な子供への対応	・ビート板、ヘルパーといった遊具を誰もが自然に使ってよい場にするのが手立ての一つである。高学年になればなるほど、このような補助具を使う姿を見られることに抵抗を感じることもあると思う。有効的な学習は、グループ学習である。グループで助け合うことが自然であると思える学習環境をつくるのが大切だと思える。手を取り合ったりビート板を引いてもらったりすること、特定の子供に限らず全ての子供が互いに不安を取り除く声かけを行えるようにすることなどができるとよいと思える。そうすることで、教員だけが支援する環境から、子供同士が支援し合う環境へと、学びの場が変容していくと思える。
	○続けて長く泳ぐ	・水泳部では、かき数のカウントという方法をよくとっている。そうすることで25mプールでも泳力の向上を図ることが可能である。
思考力、判断力、表現力等	○めあてのめたせ方	・オリエンテーションで目標とする泳法の姿を動画で見せる方法がある。その上で、自分の課題は何なのか、客観的な姿から子供自身が考える判断させることができる。
		・オリエンテーションでは、正しい泳法で泳いでいる映像を見る。苦手な子供にはどの段階から学習を始めるとよいかを資料で示し、段階的に課題解決に取り組めるようにすることも効果的である。 ・すでに泳法を身に付けている子供には、より抵抗を小さくする泳法で、続けて長く泳ぐことを目標としている。例としては、かき数を数え、かき数を減らして泳ぐ学習活動がある。仲間に数えてもらい、推進力が以前より向上しているか見てもらうとよい。
学びに向かう力、人間性等	○動機づけ	・今までの学習経験から水泳運動系の運動に対して否定的な子供もいる。リズム水泳などの今もっている力で取り組むことができる活動を通して意欲を高めることが大切である。
	○主体的に取り組む	・子供による自己選択の場を多くつくることだと思える。教師の主導で行う指導から、子供が場を選ぶ、子供が学習課題を選ぶ、子供が学習課題を自分で探すなど、段階的に子供に委ねることができるよう、計画を工夫していくとよい。
評価	○評価の方法	・一単位時間にすべての児童を一人で見とめることは難しい。その代わりに、複数の教員でどの子供を見取っていくのか、計画を立てたり、ICT機器を使って見取ったりする。校内で許されれば、児童の学び合いにICTを使い、撮りためた画像から把握することも可能である。
		・複数の教員で場所や対象とする子供で分担を決める。また、その時間の評価の重点を共通理解して授業を行える。1時間の中ですべての子供を見取るのではなく、ある時期にどのグループの子供たちの変容を見取るかを、複数の教員で分担することも手立てとして考えられる。
	○学習カード	・学習カードでは、自分の取り組みを振り返ることができるようにする。
指導体制	○場の設定	・段階的に場(例として50mを泳ぐ場、25m泳ぐ場、泳法を段階的に学ぶ場)を分けて、子供自身が場や活動を選ぶことからはじめてみるのが効果的である。